

令和7年度 徳島県小・中学校教育課程研究集会 (中学校音楽部会)

令和7年7月28日(月)

徳島県教育委員会

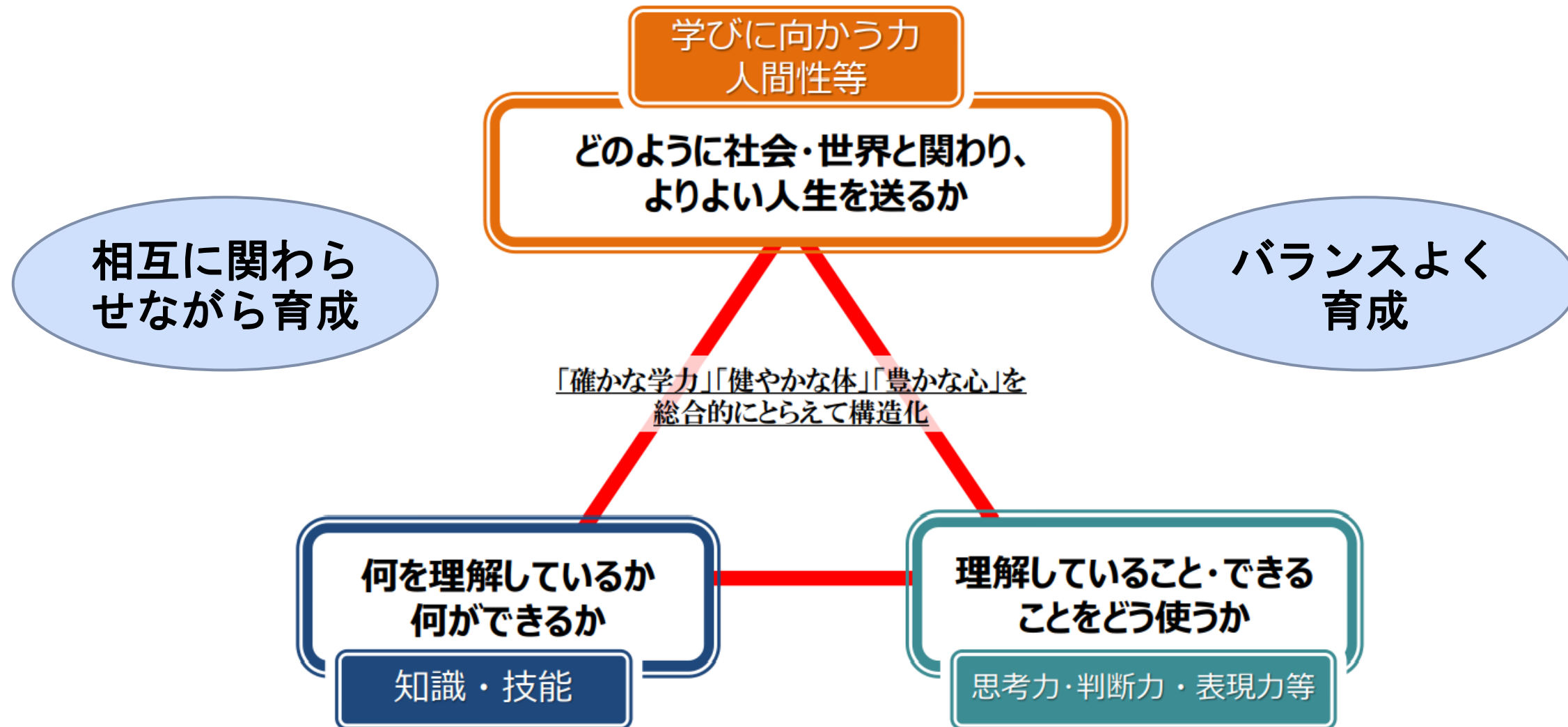
本日の日程

13:30～14:20	開会・イントロダクション 部会Ⅰ（説明）
14:20～14:30	休憩
14:40～15:40	部会Ⅱ（協議・全体共有） まとめ
15:40～16:00	リフレクション・閉会

イントロダクション

音楽科の授業実践で御自身が現在、課題に感じていることは、どのようなことですか？

育成を目指す資質・能力



指導要領 p. 99

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、**音楽的な見方・考え方を働かせ**、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



(1)～(3)の実現により、この資質・能力が育成される

- (1) **曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。** (知識及び技能)
- (2) **音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことがで**きるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。 (学びに向かう力、人間性等)

「幅広い活動」とは？

- ＜歌唱＞＜器楽＞＜創作＞＜鑑賞＞の **2 領域 4 分野の活動を偏りなく扱う。**
- 我が国や郷土の伝統音楽を含む **多様な音楽を教材** として扱う。
- 例えば「歌唱」では、独唱、重唱、合唱など、 **様々な表現形態の音楽表現を体験** させる。
- 個人、ペア、グループなど、 **様々な学習形態の中で** 音楽表現を創意工夫したり、音楽のよさや美しさを味わったりできるようにする。

音や音楽と触れる場면을充実させることが大切

音楽的な見方・考え方

解説書 p. 10

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、伝統や文化などと関連付けること。

「**音楽に対する感性**」とは、音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るときの心の働きを意味している。音楽科の学習は、生徒が音や音楽の存在に気付き、それらを**主体的に捉える**ことによって成立する。生徒が、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして**自ら音や音楽を捉えていく**とき、生徒の音楽に対する感性が働く。したがって、音楽に対する感性を働かせることによって音楽科の学習は成立し、その学習を積み重ねることによって音楽に対する感性は豊かになっていく。

「音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え」は、音や音楽を捉える視点を示している。音や音楽は、そこに鳴り響く音響そのものを対象として、音楽がどのように形づくられているか、また音楽をどのように感じ取るかを明らかにしていく過程を経ることによって捉えることができる。音楽科の学習では、このように音や音楽を捉えることが必要である。そして、その支えとなるものが、従前の〔共通事項〕ア

「音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること」である。

各学年の目標

【第1学年】

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

各学年の目標

【第2学年及び第3学年】

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	ー	ア	
〔共通事項〕	イ	ー	ア	

内容（第1学年「A表現」(1)歌唱）

A表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
- (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
 - (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲趣に応じた発声との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
 - (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

知識

- ・ 音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにする。
- ・ 音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるようにする。

技能

- ・ 創意工夫の過程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現する際に自ら活用できる技能のことである。
- ・ 創意工夫の過程で、様々な音楽表現を試しながら思いや意図を明確にしつつ、また技能も習得されていくという指導が必要になる。

思考力、判断力、表現力

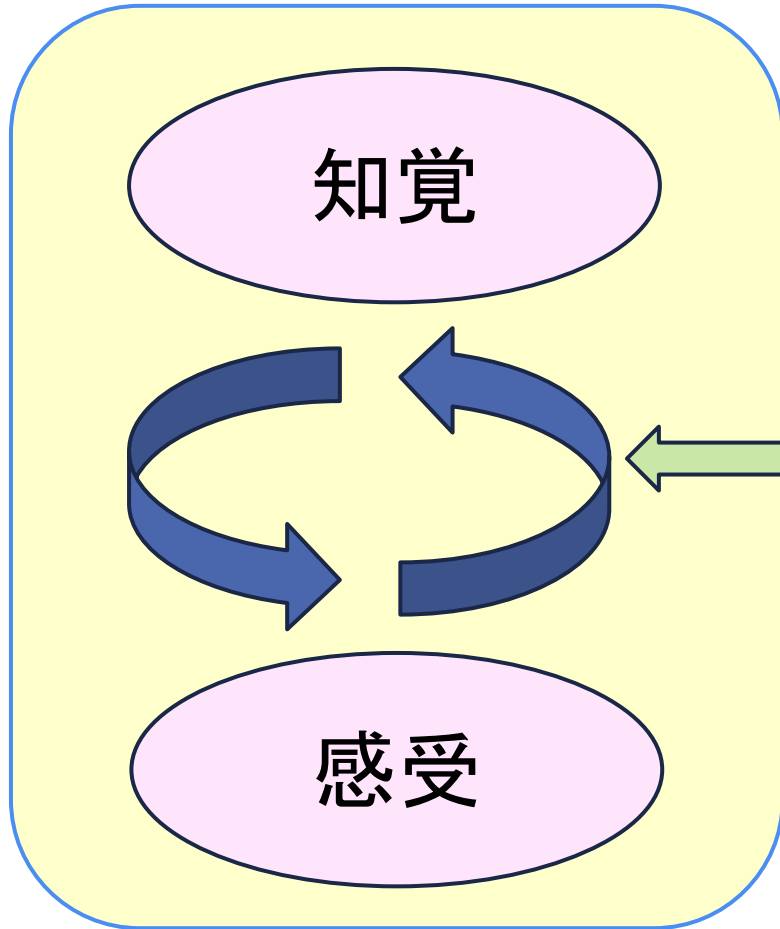
- ・ 音楽表現を創意工夫するとは、音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージを共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽で表現できるかについて思いや意図をもつことである。
- ・ 音楽のよさや美しさを味わって聴くとは、曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。

〔共通事項〕（第1学年、第2学年及び第3学年）

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、**知覚したことと感受したことの関わりについて考えること。**
- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

知覚と感受



=聴覚を中心とした感覚器官を通して音や音楽を判別し、意識すること。

どのような要素を知覚したのか
その要素の働きによってどのような特質
や雰囲気を感じたのか

=音や音楽の**特質**や**雰囲気**などを感じ、受け入れること。

一体的な関係

【指導計画の作成と内容の取扱い】

- 1 (2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。
- (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。

学習の流れ（例）

〔共通事項〕

音楽を形づ
くっている要
素を**知覚**する

それらの働き
が生み出す特
質や雰囲気
を**感受**する

関わりについて**考える**

技能の習得

音楽表現に対する
思いや意図をもつ

音楽のよさや美し
さを味わって聴く

知識の習得

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた三つの視点に立った授業改善

- ① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているかという視点。

音楽科・芸術科音楽における「対話的な学び」

「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えをもったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

音楽科・芸術科音楽における「対話的な学び」

解説書 pp. 100-101

音楽活動は、本来、音によるコミュニケーションを基盤としたものであり、言葉によるコミュニケーションとは異なる独自の特徴をもっている。一方、音楽科の学習においては、言葉によるコミュニケーションを適切に位置付けることによって、音や音楽によるコミュニケーションを充実させることができる。したがって、生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図などを相互に伝え合う活動を取り入れることによって、結果として音によるコミュニケーションが一層充実することに結び付いていくように配慮することが大切である。

音楽科・芸術科音楽における「対話的な学び」

例えば、表現の活動においては、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、**実際に歌ったり演奏したりして**音楽表現を高めていく楽しさを味わうようにすることが考えられる。また、鑑賞の活動では、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有した後、**視点をもって、再度音楽を聴く**ことにより、音楽をより味わって聴くようにすることが考えられる。

指導と評価の一体化

育成を目指す資質・能力

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む
態度

評
定

個人内評価

音楽科では特に
大切にしたい

指導と評価の一体化

指導

＝学習指導要領の「内容」に示された指導事項

評価

＝評価規準

- 「内容」に示された指導事項の文言をそのまま用いて評価規準を設定する。



指導と評価の一体化のポイント

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確にする。

→その題材の学習内容を踏まえて適切に選択し、題材の評価規準の「思考・判断・表現」に位置付ける。



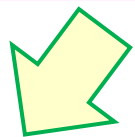
- ・ 学習の内容を具体化する
- ・ 指導のねらいを明確にする
- ・ 指導の改善に生かしやすいとする

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

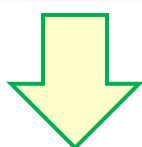
- 音楽を形づくっている要素自体の理解 → 解説書p. 116～119
- 一題材において、思考・判断のよりどころとして貫くもの
→領域・分野を関連付けた題材構想の場合、領域・分野、若しくは教材によって異なるものではない。
- 思考・判断のよりどころとなる「主な」を設定する
→焦点化
- 年間指導計画でのバランスや児童の実態に応じた要素の設定

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

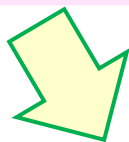
思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素



要素
A



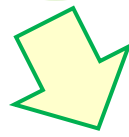
要素
B



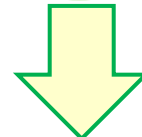
要素
C

音楽の表現に対する表現意図をもつ
音楽のよさや美しさを味わって聴く

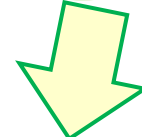
要素
A



要素
B



要素
C



思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

音楽の表現に対する表現意図をもつ
音楽のよさや美しさを味わって聴く

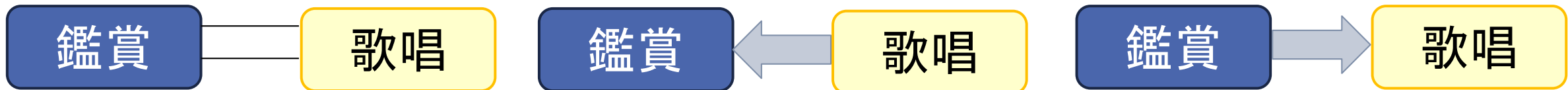
「学習内容」と「学習活動」の精選

□ 題材でどこを中心と据えるか。

□ 学習内容＝指導事項→評価が伴う

生徒がどのような力をつけるのか、何ができるようになるのか。

□ 題材構想の捉えの例



□ 学習内容 「～に気付く」「～理解する」「～捉える」「～工夫する」
「～味わう」等

□ 学習活動 「～歌う」「～演奏する」「～聴く」「～話し合う」「～記述する」
等

学習過程を見取る

(例) グループ活動における表現の工夫や創作の過程等で

○話合いや創作過程の「ログ」として記録させる

○グループの活動内容が見えるようなワークシートの工夫

今日イチバンのひらめき	
それに対するグループの意見	

徳島 ICT活用モデル

～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて～



徳島県教育委員会
令和 6 年 3 月

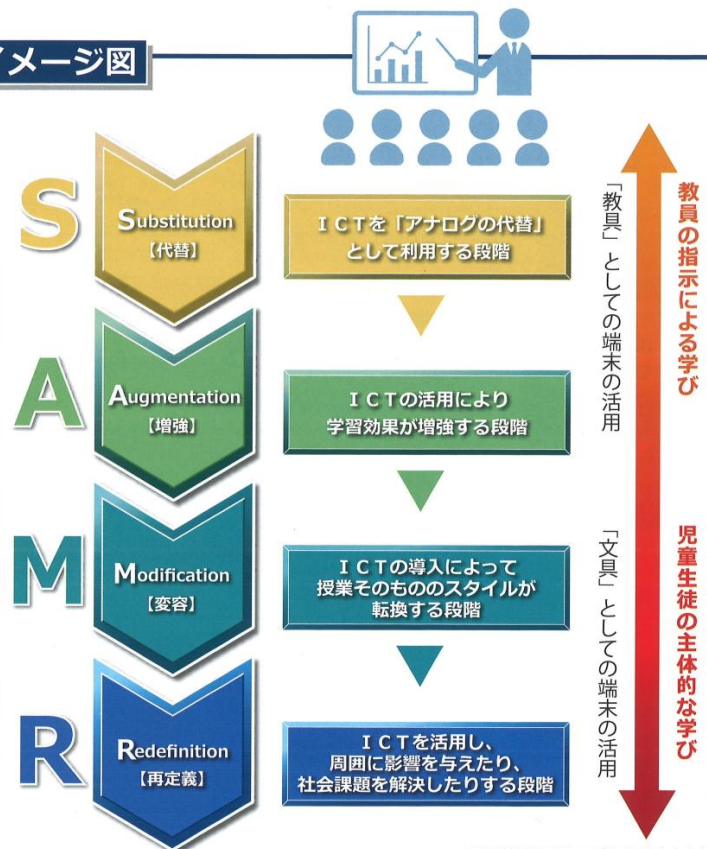


徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。

ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。

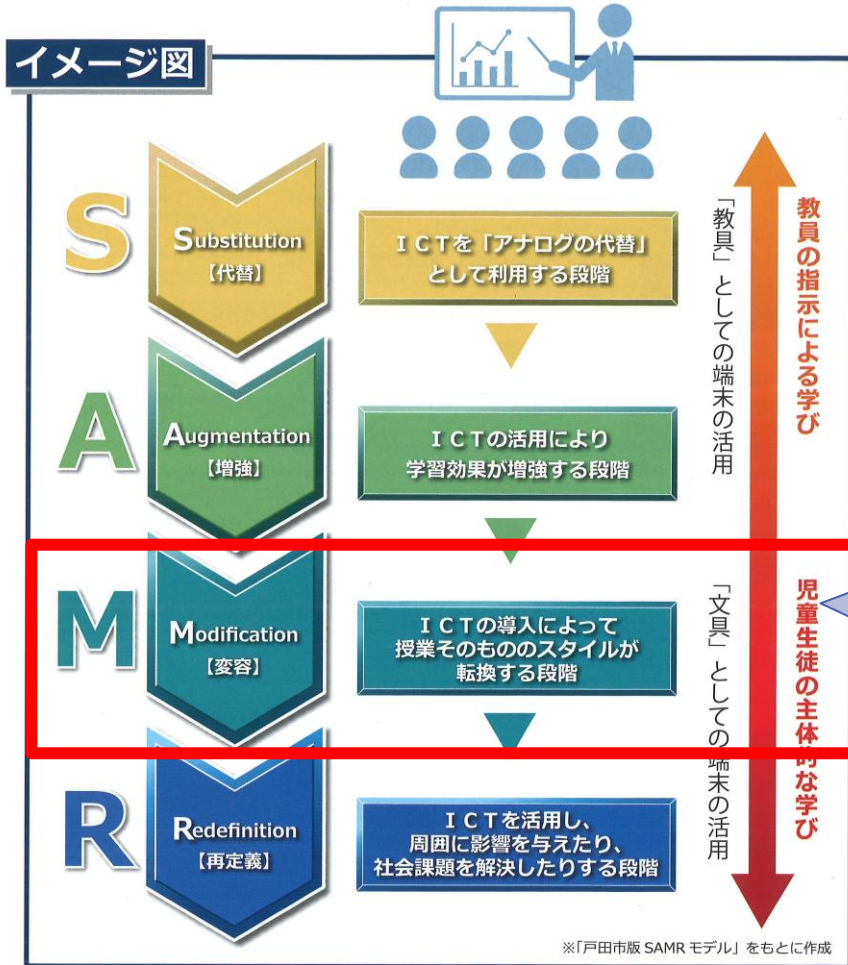
イメージ図



※「戸田市版 SAMR モデル」をもとに作成

徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



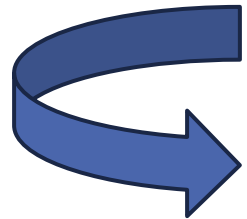
Modification【変容】

ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する

- ロイロノートを活用して自宅で反転学習を行い、学校では対話や協働作業などの活動を行う。
- オンラインで専門家とつながり、活動への助言をもらう。
- 遠隔地の学校とオンラインでつなぎ、相互に学ぶ。
- Microsoft Formsを利用し、アンケートをとって分析する。

音楽科授業における効果的なICTの活用とは

- ・生徒が音楽に対する**感性を働かせやすい**環境の設定ができる
- ・音や音楽を、**音楽を形づくっている要素の働きの視点**で捉えることができる
- ・捉えたことと自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと**関連付け**たりできる



- ・「聴き取ったこと（知覚）」と「感じ取ったこと（感受）」の関わりを深める
- ・思いをもつ
- ・技能の習得や表現の創意工夫を高める
- ・創作→思いをかたちに

音楽科におけるICT活用の例

【表現】

- ・ 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現の見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・ 音を可視化するソフトを利用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・ インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための表現意図を深める。
- ・ 音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・ つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

音楽科におけるICT活用の例

【鑑賞】

- ・ クラウドに保存された演奏の音源や画像を、自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら、音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深める。
- ・ 作品の背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し、作品に対する理解を深める。
- ・ 同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

> サイトマップ

> English

文字サイズの変更

Google Custom Search

会見・報道・お知らせ

政策・審議会

白書・統計・出版物

申請・手続き

文部科学省の紹介

生きる力

GIGAスクール構想の実現

リーディングDXスクール

学校DX戦略アドバイザー事業ポータルサイト

みるみる

GIGA StuDxメールマガジン

全国の校務DXポータルサイト

校務DXの取組に関するダッシュボード

高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)

未来の教室

スタディーエックス スタイル

StuDx Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

8/7 こども霞が関見学デー申込

ブテ学習会はコテラ

お困り相談はコテラ

研修支援はコテラ

新着情報・トピックス

1. 各教科等における
深い学びの実践

※高等学校に関する深い学びの実践事例については、
現在、公開に向けて準備中です。

各教科等での活用

慣れる
つながる
活用

STEAM教育等の
教科等横断的な
学習

小学校

国語

社会

算数

理科

生活

音楽

図画工作

家庭

体育

外国語活動
外国語

特別の教科
道徳

総合的な
学習の時間

特別活動

中学校

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術・家庭

外国語

特別の教科
道徳

総合的な
学習の時間

特別活動

【事例】

第2学年「曲の魅力をより効果的に伝える演奏を探そう」

https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015485_4.pdf

【事例】

第3学年「構成を考えて音楽をつくろう」

https://www.mext.go.jp/StuDXStyle/20250620-mxt_kyoiku01-000015485_5.pdf

音楽科におけるICT活用の例

- ・ 読譜補助の活用
- ・ 音の可視化
- ・ 代替楽器としての活用
- ・ お手本動画やコンテンツ、映像資料
- ・ デジタル教科書等の活用
- ・ 録画や録音機能の活用
- ・ インターネットによる調べ学習での活用
- ・ 思考ツールの活用
- ・ クラウド音源の活用
- ・ アンケートフォームを用いての導入や振り返り

資質・能力の育成の観点から

